

京大数学教室近況報告(10/27/2018 現在)

平成 30 年度 数学専攻長 雪江明彦

1. 構成員

京大数学教室の現在の構成員は、教員数 57 名で、その内訳は、教授 19 名(高等研究院 1 名)、准教授 21 名(国際高等教育院 1 名)、講師 2 名、助教 7 名、特定准教授 1 名、特定講師 1 名、特定助教 6 名です。また客員教員が 6 名です。現在准教授(または講師または助教)を 1 名公募中です。

数学教室をサポートする体制として数学事務室に 10 名、図書室に 3 名、用務員室に 2 名の職員がおられます。

2. 主なプロジェクト活動

数学教室が取り組んでいる活動として、KTGU 数学ユニットと MACS 教育プログラムがあります。

1). KTGU 数学ユニット

今年度で KTGU は 4 年目ですが、今年度から並河教授がユニット長、財務担当が國府教授となっています。この KTGU の活動は次のようなものです。

- ・海外の著名な研究者を招聘し、特別講義を開講、
- ・海外副指導教員による大学院生に対する共同学位指導の実施、
- ・大学院生への海外渡航支援、学部セミナーの開催

今年度は

特別招聘教授 6 名 (うち予定 3 名) 特任招聘教授 3 名
特任教授 13 名 (うち予定 2 名)
コース修了認定者 9 名 (予定)

となっています。なお、特任教授は副指導教員となるための身分で、長期来日は必ずしもありません。9名(予定含む)が海外の副指導教員に合計3か月指導を受け学位を取得し、またスーパーグローバルコースを修了する予定です。

今年度から KTGU 事業の一環として、コチューテールという制度を始めました。大学間、部局間で海外の大学と協定を結ぶことは一般的ですが、コチューテールとは学生個人に対して協定を結び、1つの学位論文で海外の大学と京大で2つの学位を出す制度です。この制度は交流する学生が必ずしも毎年いるわけではないような場合に利用される傾向にあります。今年度は早速エコール・ノルマル・シュペリウール・リヨンの院生がこの制度を利用して来年の2月から数学専攻に滞在します。

KTGU 事業の一環として毎年夏季休暇中に学部1,2回生を対象にした合宿型勉強会吉田塾を開催しています。しかし今年度は台風21号の影響により中止せざるを得ませんでした。

2). MACS 教育プログラム

これは概算要求による研究科内のプロジェクトで、平成28年度から始まっているプロジェクトです。目的は、数理を基盤とした理学5分野を横断する融合研究を促進し、新たな学問分野の自発的創出を促すことと、それに対応できる優れた若手研究者を育成すること、となっています。そのため、理学研究科の複数の専攻の教員と学生からなるスタディグループが組織され、分野横断型の教育と研究が行われています。スタディグループの例として、

- ・データ同化の数理と応用(坂上)
- ・VRで見る・3Dで触る先端科学(稲生)
- ・種々の実例から考えるパターン理論(石塚)
- ・脳科学に関わる数理(加藤毅)
- ・疾患における集団的細胞挙動の数理モデルの開拓(シュワドレンカ)
- ・理学におけるデータ科学実践：機械学習で自然科学を読み解けるか(中野)

などがあります。

3. 教職員の移動

次に教職員の移動についてお知らせします。今年度は4月に伊藤哲也准教授が着任されました。また、入谷寛さんが4月から教授に昇進しました。新任の伊藤さんと入谷さんのさらなる活躍を期待しています。一方で小西由紀子さんが3月末に津田塾大学に教授として、特定助教の Ivan Chi-ho Ip さんが5月末に香港科技大学に助教として異動しました。お二人のこれまでの数学教室におけるご貢献に感謝するとともに新天地でのご活躍をお祈りいたします。職員では、長年図書の仕事で貢献されてきた事務補佐員の池村容子さんが3月末に退職されました。池村さん有難うございました。また、ご出産のため休職されていた水田華子さんが9月に復帰しました。また派遣社員の市川友佳子さんが7,8月の2ヶ月事務補佐員として在職され、派遣社員の高木茉依子さんが9月から3月末まで事務補佐員として在職されます。

4. 受賞

今年度の教員の受賞についてご報告します。

日本数学会幾何学賞 尾高悠志 准教授（平成30年9月）

5. その他

台風21号で3号館南の桜が被害を受け、撤去しましたが、その場所には、令和1年11月頃神代桜を植樹することになりましたことをご報告します。またここ数年数学系の人気が高く、系登録試験を実施し、数学系に登録できない学生数が多くなっています。理由ははっきりとは分析できていませんが、現代数学の基礎で学部低学年に演習を通して手厚く教育したり、特色入試で入学した学生が他の学生への刺激になったり、吉田塾の開催などさまざまな地道な努力が関係しているのではないかと推察されます。